北九州市立則松中学校

【学校ホームページアドレス】
www.kita9.ed.jp/norimatsu-j

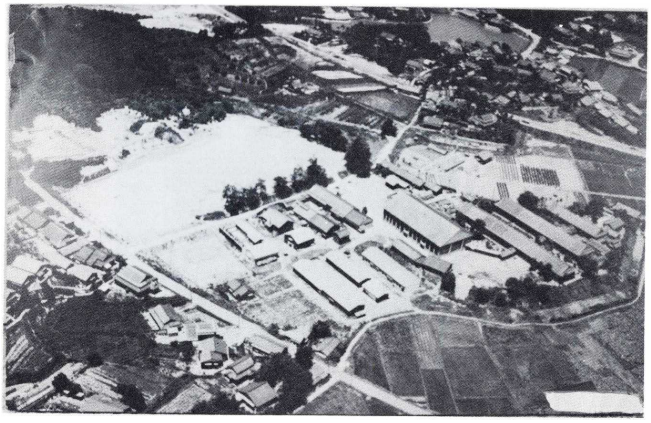
ジャガイモ

校長通信　No.３０１

令和６年　３月２２日

「 創立５０周年に向けて① 」

校長　江　口　　満



則松中学校地（創立73年の歴史ある旧遠賀農芸高校。
昭和46年３月で遠賀町へ移転。）

上記写真の遠賀農芸高校配置図

【上】本校創立10周年記念誌からの抜粋した50数年前の航空写真。
50数年前、本校の校地全体に遠賀農芸高等学校が配置されている。現在の正門前、福岡県八幡農林事務所の駐車場付近が高校のグランドである。地図を見ると、当時の池や果樹園付近に総合庁舎が建てられたことが分かる。また校地の北側は、当時、野菜園や水田である。そこに現在、福岡県工業技術センター機械電子研究所が建てられていることも分かる。

卒業式から２週間が過ぎようとしています。私の心に、卒業式の余韻（よいん）が、まだ残っています。この間、公立高校一般入試の合格発表があり、卒業生の皆さんは、それぞれ自分の道を、しっかりと歩み始めました。卒業式は、卒業生の皆さんはもちろんのこと、３年間手塩にかけてきた先生方、１５年間育ててこられた保護者の皆様、今まで見守ってきてくださった地域の皆様にとって、ひとつの節目でした。そして本校の節目である創立５０周年がもうそこまできています。

本校は、1975年(昭和50年)4月1日に産声をあげました。昭和50年といえば、山陽新幹線の岡山駅～博多駅間が開業し、新大阪駅から博多駅までを結ぶ山陽新幹線が全線開通した年です。以前の東京～博多間の移動が11時間以上要していたのが、山陽新幹線の開業で6時間56分までに短縮され、利便性が一段と向上しました。ちなみに根強い人気の「きのこの山」もこの年に誕生したそうです。

そう言えば私の中学校時代の関西方面への修学旅行では、まだ山陽新幹線が開通していなかったため、早朝から黒崎・京都間を急行列車に揺られ、夕方に到着した記憶があります。また帰りは、大阪から夜行の急行列車に乗り、朝早く黒崎に着きました。夜行の寝台列車ではないので、新聞紙を床にひいて寝るか、シートに座ったまま寝た記憶もあります。

さて少し本校の歴史をたどってみることにします。開校の2年前の1973年(昭和48年)に、折尾中学校に「仮称第二折尾中建設準備委員会」が発足します。もともとこの校地には、遠賀農芸高等学校が設置されていました。しかし、1971年(昭和46年)に高等学校が遠賀町に移転し、この跡地の活用が問題となり、この地区の方々が折尾第二中学校の設置を市に請願し、この地が本校の校地に決まりました。

開校の前年度、①親しみやすい校名、②地域にふさわしい校名、③他校とまぎらわしくない校名、④数称をつけない、等を基準として、折尾中や関係小学校、地域の方から校名を募集します。則松中、折尾南中、洞南中、堀川中、東筑中、桜ケ丘中、大膳中、筑泉中、等々多数の校名が応募されます。準備委員会で慎重に検討されますが、全員一致で決定できず、則松中、折尾南中の二つの案を答申。その後、教育委員会、市議会の承認を得て「則松中学校」と決定しました。**【次号に続く】**

10月29日(日)福岡県中学校文化連盟福岡県大会に出場した箏曲部の皆さん

【下】連覇を果たした箏曲部に、ＰＴＡから横断幕をいただきました。現在、正門横に掲示しています。

※校長通信「ジャガイモ」№301・302の本文は、3月22日(金)修了式の式辞の内容と12月8日(金)にＰＴＡのご支援のもと開催した寺田智輝氏講演会「知ることは愛の始まり～生きづらさを輝きに変える～」の生徒感想文をお届けします。本文や感想文とは関係ない写真もありますが、生徒の皆さんの活躍を掲載します。

【上】12月8日(金)クロフネカンパニー寺田智輝氏人権講演会「知ることは愛の始まり～生きづらさを輝きに変える～　」を開催。LGBTQの知識だけではなく、自分自身と向き合い、苦難を乗り越えてきた自身の経験をもとに誰もが抱える「生きづらさ」を乗り越える見方、とらえ方のヒントなどを学びました。

「寺田智輝さんを僕は尊敬する」
２年１組　Ｔさん

性同一性障害と診断された寺田智輝さんは、男性として生きていく覚悟を決め、本当に苦労したんだなと思います。子どもの時からこのことについてずっと悩んでいて、自分自身が大嫌いで、ずっと苦しんでいたと考えると、僕だったらきっと我慢できないと思います。

なぜ差別をされなきゃいけないのか、なぜ他人とちょっと違うだけで、そんなことにならなければならないのか。なぜ自分を偽らなければいけないのか。その意味が分かりません。智輝さんがどれだけ苦労したのか、そしてそこからどう変わっていったのか、本当に伝わってきました。自分が自分であり続けるために、それを言うのにどれだけ悩んだのか、本当にすごいなと思いました。寺田智輝さんを僕は尊敬します。どれだけ勇気がいったか、どれだけ心の中で考えたのか、そのことがすごいことだと思うからです。(後略)

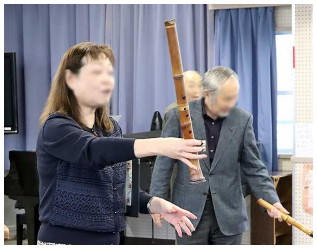
「いくつもの困難を乗り越えてきた寺田さん」
２年２組　Ｋさん

寺田さんは性転換手術をするまでに、いくつもの困難を乗り越えられたことを知りました。女性から男性になるために仕事も頑張って、お金を貯めて、手術をするのに9年間もかかっているので、とても辛かっただろうなと思います。寺田さんが子どもの頃、女の子と思われる格好をさせられるのが嫌で、また成人式も嫌がっていたので、どんなに頭を悩ませていたのか身に染みて分かりました。寺田さんが高校に行くか就職をするかについておばちゃんに相談すると、「高校に行く方がいい。」と言われたと聞いた時、私は寺田さん同様、びっくりしました。しかし実際、寺田さんが行った女子高がとてもサバサバした人が多く、寺田さんを受け入れてくれる人が多くてとてもよかったです。その後、兄や姉に自分のことを話したら、「気づかなくてごめん。」と優しい言葉をかけられた寺田さんは、とても嬉しかっただろうなと思いました。(後略)

「考えるきっかけとなった寺田氏講演会」
２年４組　Ｋさん

寺田さんの講演会を通して、僕は性別のことを深く考えるきっかけになりました。僕は体は女性で心が男性の人についてあまり深く考えていなくて、今まで「そういう人もいるんだな。」くらいでした。だけど講演会を通してそういった人の苦しさや悩みを聞くことができ、とても勉強になりました。

また講演会で人の温かさも学ぶことができました。自分とは違う人のことを励ましたり、自分と同じ中で生きてきた人たちが一人を理解し、励ましたり考えを変えたりしていたからです。講演会を聞け勉強になり本当に良かったと思いました。



【上】2月29日(木)ＰＴＡのご支援で毎年行われる和楽器演奏会の様子。本校箏曲部のご指導いただいている箏曲生田流筑紫会大師範黒岩香代子先生を中心とした和楽器演奏家にお越しいただき、「春の海(箏・尺八)」「みずうみの詩(箏・尺八・ピアノ)」「星に願いを(尺八三重奏：ピノキオの主題歌)」「月夜祭(箏・三味線・尺八)」などを演奏してくださいました。箏曲や三味線などの演奏体験学習を通して、美しい音色を出すことの難しさを知っている生徒の皆さんは、和楽器演奏の迫力を肌で感じることができました。